

高校向け「新たなせんきょ体験授業」検討PT

第4回会議 要点録

日時 令和4年2月14日（月）18時30分～20時10分
場所 札幌市役所本庁舎地下1階 第2号会議室
出席者 青塚委員、渡邊委員、柳野委員、佐藤委員（座長）、
宮腰委員（オブザーバー委員）

1 開会

2 実施要領案の修正について

前回会議での議論を踏まえ、資料1～4に基づき、実施要領案の修正箇所を確認。その中での主な論点は次のとおり。

ア 過去の選挙における年齢別投票傾向を示す資料の活用可否について

授業終盤の振り返りの際、「全体の投票傾向と若者の投票傾向は必ずしも同じではない。だからこそ、自分たち若者は投票を通じて自らの声を届けるべきだ」という気付きを生徒に促したいという意図を持って、過去の実際の選挙結果と校内の開票結果とを比較し、自分自身の気付きをアンケート用紙に記入する時間設定がある。

しかし、校内の開票結果が出るまでには若干時間を要することから、生徒にはその間、予習を兼ねて過去の選挙における年齢別の投票傾向を示す資料を基に、全体の投票傾向と若者の投票傾向とを見比べるよう、自習させることにしている。

この自習時間の効果促進を巡り、年齢別投票傾向を示す資料について、生徒にとってのわかりやすさを最優先に、公益財団法人による調査結果又は報道機関（一般社団法人）による調査結果をシンプルに活用してはどうかという意見や、調査サンプル数の多さから報道機関（一般社団法人）の調査結果のみを活用するという意見がある一方で、生徒に誤解を生じさせないようにするために、また、政治的中立性の確保にも配慮し、複数の調査結果を用いて少し時間を掛けて丁寧に説明を加えるべきという様々な意見があった。

最終的には、時間的制約と政治的中立性確保を考慮し、過去の選挙における年齢別投票傾向を示す資料は活用しないこととする一方で、校内開票集計の迅速化や授業展開の一部組替えにより、自習時間を最小化し、生徒が時間を持て余すことなく確実に、過去の実際の選挙結果と校内の開票結果とを比較し、自分自身の気付きを発掘できるようにすることとした。

3 学校主導の場合を想定した学習指導案について

前回会議での議論を踏まえ、資料1に基づき、学校主導の場合を想定した学習指導案を確認。その中での論点は次のとおり。

ア 観点別評価を行う際の評価の方法について

この授業で観点別評価を行う際、生徒からの提出物により評価をするのか、教師が主体的に生徒の動向を見て評価をするのかという点で意見交換が行われ、学校主導で行う際には、投票の秘密保持にも配慮しながら、記名式でワークシートを提出

させる方法もあり得るとの結論に至り、一部、修正することにした。

4 今後の展開について

資料1に記載のとおり、既にある「選挙啓発出前講座」のメニューに今回の実践的な「新たなせんきょ体験授業」を加え、学校が選択できるよう紹介するなどして、札幌市選挙管理委員会と北海道選挙管理委員会とが連携して生徒に受講機会を提供していく旨、報告。

まず来年度は、札幌市内の学校を対象に募集を行い、希望する学校に対しては、札幌市選挙管理委員会と北海道選挙管理委員会が連携して、学校教員の協力も得ながら、「新たなせんきょ体験授業」を実施していきたい旨、報告。

その中での主な論点は次のとおり。

ア 校長会への働き掛けについて

学校教員の協力を求めるならば、単にパンフレットを学校に配るだけではなく、校長会にも直接、話を通すべきだという意見があり、学校側から積極的に選挙啓発出前講座に応募していただけるよう、直接、校長会に働き掛けることになった。

イ 学校教員の協力について

選挙啓発出前講座を申し込む側の学校教員の意識としては、専門的知識を有する選挙管理委員会が授業を全面的に取り仕切る前提にいると思うという意見があった。

しかしながら、従前から選挙啓発出前講座を実施する際には、前もって道選管と市選管と学校教員とで打合せを行い、学校が何を求めているかを把握し、少なからず学校教員にも協力してもらいながら、そのクラスに合った組み立てで柔軟に授業を行ってきた。

今後、選挙啓発出前講座の中で「新たなせんきょ体験授業」を実施する際には、生徒の政治に対する意識がどの程度あるかを把握するなど、従前にも増して、学校との綿密な事前のコミュニケーションが必要となり、その中で、ほぼ全面的に選管主導で行う組み立ての授業にするのか、学校教員の協力も得ながらもう一段上の展開を目指した授業にするのかなどを検討していくことになる。

したがって、選挙啓発出前講座の申し込みを受けてから、事前に学校教員と打ち合わせの中で、従前までと変わることなく、何が生徒にとって最善かを念頭に北海道選挙管理委員会、札幌市選挙管理委員会、そして学校も一体となって検討していくことになることを説明。

ウ 大学との連携について

「新たなせんきょ体験授業」を実施するに当たっては、大学生を巻き込んで展開していくことも大事だという問題提起があったが、授業を受ける高校生の政治的意識向上への効果が見えないことなどから、見送ることとなった。

5 閉会

佐藤座長から、委員全員に感謝の言葉が述べられた後、今後、学校をはじめ、明るい選挙推進協会、道と市の選挙管理委員会という大きく三者が協力し合い、仲間を増やしながら、大人である私たちみんなで、「未来を担う人づくり」に取り組んでいきたいと挨拶があり、閉会となった。